

茂木、米谷ロングを制する

木村佳司

インカレロング 2006年9月17日 長野県駒ヶ根市

大熱戦となったインカレロング2006。混戦を抜け出したのは茂木堯彦(東京)と米谷法子(東京農工)。

茂木・東大復活の狼煙だ！

男子は最終スタートした茂木(東京)が途中で最速タイムを更新。そのまま安定したレース運びを進めた。フィニッシュレーンではライバルたち速報タイムが掲示されたボードに目をやる余裕を見せた。会場アナウンスが茂木トップを告げる中、手をあげてウイニングランを飾った。

男子ロング種目で東京大学の選手が優勝したのは実に10年ぶり、奈良インカレ1996で優勝した太田晃弘以来だ。はるか昔には村越、鹿島田をはじめ強豪選手を輩出し、ロング種目の優勝者を大量に輩出してきた東京大学が再び黄金時代を迎えるか、これからに期待したい。



男子優勝者・茂木堯彦(東京大学)優勝を確信し、ガッツポーズでウイニングランを飾る。

もうひとつの注目は京都大学。今年の春にインカレミドルで優勝した大西がロング種目でも2位に食い込むなど、京都大学が強さを見せ、表彰台に3人が登った。

男子選手権 9200m	530m	
1 茂木堯彦	1:22:14	東京 3
2 大西康平	1:24:17	京都 4
3 西村徳真	1:25:18	京都 3
4 藤沼 崇	1:27:18	新潟 4
5 津國真敏	1:27:43	京都 4
6 杉山尚徳	1:28:59	東北 3



優勝杯を高々と掲げる茂木

茂木のインタビュー

10年ぶりの東京大学の優勝とは知らなかった。この調子で来年のロングも獲りたい。

前半いくつかミスしていたが、スペクターズ時点で40分を切っていたので、このままいけば優勝できると思った。コース後半はキツイと予想していたが、これほどとは思っておらず、つらかった。その分ミスを抑え、走れるところは走って粘った。

今年の春インカレもリレーを含めて優勝し、来年も含めて6連覇したいと思っている。

(表彰台インタビュー要約)

米谷、雪辱を晴らす

女子は米谷(東京農工)が最初から最後まで安定した走りを見せた。中間タイムを更新し、そのまま安定したペースでフィニッシュ。後続の選手の結果を待った。

最終スタートの臼倉(岩手)が米谷の中間タイムを上回り、岩手大学がインカレで初優勝かと会場の期待は高まった。しかし臼倉は後半ミスを繰り返して5位に沈んでしまった。これにより

米谷の優勝が確定した。

米谷の所属する東京農工大学はこの春に行われた愛知インカレ2006のリレー種目で、大逆転でトップフィニッシュを飾ったが、米谷の失格で優勝は幻に消えた。この雪辱が米谷を強くしたのかもしれない。米谷が今度は矢板インカレ2006のリレーでどんな活躍を見せてくれるのが楽しみだ。

東京農工大学女子の優勝は実に20年ぶり。インカレが初めて2日間大会になった日光インカレ1986で角田明子(東京農工:当時)が優勝して以来。まだ米谷が生まれて間もない時代の話だ。



女子優勝者・米谷法子(東京農工大学)

2位は静岡大学の中島亜香音。走り屋を自称する彼女だがインカレロングの時は足が故障気味でスピードが出せなかったせいでミスを抑えて上位に来ることができたという。ペストラップを最も多くとっているだけに、今後到大

いに期待できそうだ。

今回目立ったのは岩手大学。堅実なレース運びでインカレ 3 位のメダルを手にした幸村和美と、スピードのあるレースができる 5 位の白倉由起がともに表彰台に立った。

この 2 名に加え、今回の WUL クラスで 2 位になった高橋摩帆を加えた岩手大学女子は今年度のインカレリレーでも台風の目となることだろう。

女子選手権 5700m	270m	
1 米谷法子	1:04:13	東京農工 4
2 中島亜香音	1:08:12	静岡 4
3 幸村和美	1:12:25	岩手 4
4 井手恵理子	1:12:28	日本女子 3
5 白倉由起	1:15:16	岩手 3
6 阿部ゆかり	1:17:15	東北 2

米谷のインタビュー

前半は特に飛ばしているとは思っていなかった。前半のタイムを見て、速過ぎると思っていたら後半はタフなコースで失速しました。最後にロングレッグがあって疲れましたが走りました。コースは予想以上にテクニカルでした。全般的に大きなミスはなく無難にまとめました。

今年のユニバーシアード出場にあたっていろいろな方からご支援いただきました。その結果が優勝につながったと思っており、感謝しています。

(表彰台インタビュー要約)



米谷、春インカレで立てなかった表彰台の上に、この秋、ついに立つことができた。

ロング競技もビジュアル時代

学生選手権ロングディスタンス競技の後半、シード選手がスタートを開始すると中間速報が次々と塗り替えられるようになる。今回のインカレロング選手権のコースは中間地点で一度会場横のスペクテーターズコントロールを通る。ここで仲間から給水と応援受け、再び森の中に消えてゆくコース設定となっている。今までのインカレロングでは無かった、より観客を意識したコースレイアウトになっていた。

これはレースのビジュアル化を進めるといった意味合いがあるが、それ以上に小さなテレインを使ってロングコースを組むという目的のほうが強い。一度会場を通るため、コースレイアウト的に少し窮屈になるが、課題設定はロング種目にふさわしくなるように気をつけた。



台風直撃かと思われたインカレロング駒ヶ根大会。幸い台風は逸れ、当日は一転して暑いレース展開に。給水用バッグを背負って走るのは岡崎智也(東北大学)。18位と快走

インカレロングの厳しい現実

学生参加者数は約 480 名。一時期 1000 名を超えた時期もあった秋インカレの学生参加者数はピーク時の半分までに落ち込んだ。これは学連加盟員数の減少が影響している。少子化や若者のスポーツ離れなどが影響しているのだ。

いずれにせよ「ロング種目」を提供する秋インカレは単独開催としては黒

字になることはできない。何らかのコラボレーションやスポンサーシップが必要だ。今回は、クラブカップと複数日イベントにすることによって開催が可能となった。これらもインカレロング開催方法の模索は続くだろう。

(木村佳司)



女子選手権クラス前半に現われる課題。多くの選手が少なからずミスをしている。リスクのある直進を選ぶか、遅くても安全な迂回ルートを選ぶか、レースプランが問われるレッグ。



白形由貴(筑波大学)と給水するオフィシャル。会場横スペクテーターズコントロールではコーチングゾーンが設けられた。

駒ヶ根高原2006

長野県駒ヶ根市

縮尺 1:10,000
等高線間隔 5m

インカレロングMEコース
と優勝者・茂木のルート
ラップタイム・推定ミス時間
を掲載。

MEコース解説

今回は一度会場を通るコース設定だけに、普通にコースを設定してしまうとミドル競技のような課題ばかりになってしまう。そこでロングコースとしてのコンセプトを意識したコースプランを心がけた。

ME5 6

コース前半のハイライト。2kmに渡ってスピードを上げて道を走るレッグである。入賞者全員がほぼレッグ線に沿った道を選んで走っているが、高速道路沿いの道を最大限に利用するのがベストルートだ。(試走で30秒程度の差)

ME18 19

コース後半のハイライト。途中にある微地形地帯で地図を読みたい衝動に駆られるが、ここを読み飛ばして19番コントロール付近の大きな特徴物まで一気に直進すると速い。

ME11 12

男女共通レッグ。男子は森をほぼ直進した者が多かったが、女子は東西の道を利用した者が多かった。直進ルートのほうがアップダウンが少ないため速い。



特殊記号
○ 石碑
× 祠・小構造物
○ フィールド
アスレチック

Trimble GPS
OCAD®

Trimble D-GPS使用
OCAD 8.13
License No.1995

地図作成
(有)ジェネシスマッピング
調査期間
2006年5月～9月
D-GPSによるプロット
調査・作図
和泉 祐
山川 克則

GENESYS
MAPPING
on demand supply